

2020年11月15日14:00～16:30
オンライン開催

長沼科研 2020年度第2回公開研究会

持続可能な部活動のあり方を考える

～2023年度からの休日の地域展開を視野に入れて～

時程

- 14:00 開会・諸注意・諸連絡
- 14:05 主催者挨拶、研究目的・内容・方法について
- 14:20 訪問調査報告①：青森県立青森工業高等学校 ねぶた部
- 14:35 訪問調査報告②：私立滝学園高等学校 ビジネス部
- 14:50 訪問調査報告③：私立大阪高等学校 eスポーツ同好会
- 15:05 ブレークアウトセッション
- 15:25 (休憩)
- 15:40 第1回公開研究会(9/5開催)報告
「部活動改革2.1 ～部活動の地域移行を考える～」
- 16:10 意見交換・質疑応答
- 16:30 閉会

本研究の概要

持続可能な部活動のあり方に関する総合的な研究

科学研究費助成事業 基盤研究（C）（一般）

研究代表 長沼 豊

●研究の目的

- 本研究は持続可能な部活動のあり方に関する知見を、学校に、地域に、教育行政に、社会に提供することで、現在進行している部活動改革に役立てることを目的とする。

持続可能な部活動とは

- 現在の、問題の多い部活動を持続するということではない
- 「適正化」を目指した部活動改革を行う際、どのような姿を目指していくのか（複数あるだろう）
- 一過性のものではなく継続的に運営可能な姿を考える
- 多くの人々（生徒、保護者、教員、管理職、指導者、地域の人々、教育委員会、国・・）から受け入れられる姿を考える

●研究の目的（小目的群）

- （１）今後の部活動改革における部活動の持続可能性の視点を明らかにするとともに、モデルとなる実践を多角的な視点から分析・考察する
- （２）日本における部活動に関する全ての先行研究を体系的・系統的に整理し、部活動研究の到達点と課題を明らかにする
- （３）この２点を踏まえて、今後の持続可能な部活動のあり方（部活動の目的・内容・方法・形態・実施主体等）を明らかにする

●研究の視点

- ①特別活動の視点
- ②ボランティア学習の視点
- ③シティズンシップ教育の視点
- ④礼法教育・道徳教育の視点
- ⑤教育史・学校文化の視点
- ⑥運動部活動・スポーツ科学の視点
- ⑦文化部活動・若者文化の視点
- ⑧働き方改革の視点
- ⑨地域部活動の視点

●研究内容（1）

- 部活動改革のモデルになると考えられる活動を実施している学校を訪問し（全国17校）、当該部活動に関する観察調査及びインタビュー調査（対象は顧問教諭、校長、生徒）を行い、今後の部活動の持続可能性の視点を明らかにする。調査の対象となるモデル校の抽出は研究協議会において9つの研究分野の視点から吟味して決定する。

持続可能な部活動の型（仮）

- ゆる部活動型（シーズンスポーツ）
- ICT活用型
- 時短活動型
- 働き方改革との連動型
- 地域連携型
- 地域での拠点校型・合同部活型
- 地域展開（移行）型

●研究内容（２）（３）

- 研究内容（２）部活動に関する先行研究を全て網羅し、その中から今後の部活動改革に資する知見を整理するとともに、これまでの部活動研究を俯瞰し、系統性や関連性を明らかにする。
- 研究内容（３）上記２点の分析・考察を踏まえ、学際的な視点（９つの研究分野の視点）から、持続可能な部活動のあり方を総合的に分析・考察し、明らかにする。

- 共同研究については、研究代表者（1名）、研究分担者（6名）、研究協力者（8名）は上記9つのいずれかの研究視点を分担し研究を進め、リーダーとして研究代表者の長沼豊と、サブリーダーとして研究分担者の林幸克が全体統括（進行管理等）を行う。15人は日常的に電子メールにて常に相互に情報共有を行うほか、研究協議会を年3回開催し共同研究を進める。また、共同で公開シンポジウムを開催し、最終的には報告書にまとめる。

2020年11月15日（日） 2020年度第2回公開研究会

持続可能な部活動のあり方を考える

～2023年度からの休日の地域展開を視野に入れて～

<訪問調査報告>

実践事例：青森県立青森工業高等学校
ねぶた部

林幸克（明治大学）



【2019年】

- 5月24日（水）調査依頼・打ち合わせ・情報交換
- 6月21日（金）高校生対象インタビュー，活動見学
- 7月24日（水）立佞武多の館（五所川原市）資料収集・見学
- 7月25日（木）教員対象インタビュー，活動見学
- 7月26日（金）津軽藩ねぶた村（弘前市）資料収集・見学
- 7月27日（土）ねぶたの家 ワ・ラッセ（青森市）資料収集・見学
- 11月23日（土）東京都立六郷工科高等学校 活動（ねぶた祭）見学

【2020年】

- 1月30日（木）情報交換・資料収集



【高校生】

Aさん

都市環境科 3年生男子 部長 平内町出身

Bさん

電気科 3年生男子 ねぶた師弟子入り中 青森市出身

* ねぶた部出身でねぶた師になるのは3人目

(ねぶた部に所属していない卒業生で2人がねぶた師)

【教員】

管理職 1名

ねぶた部顧問 1名

* 顧問歴18年, ねぶた部OB, 技術的指導可能

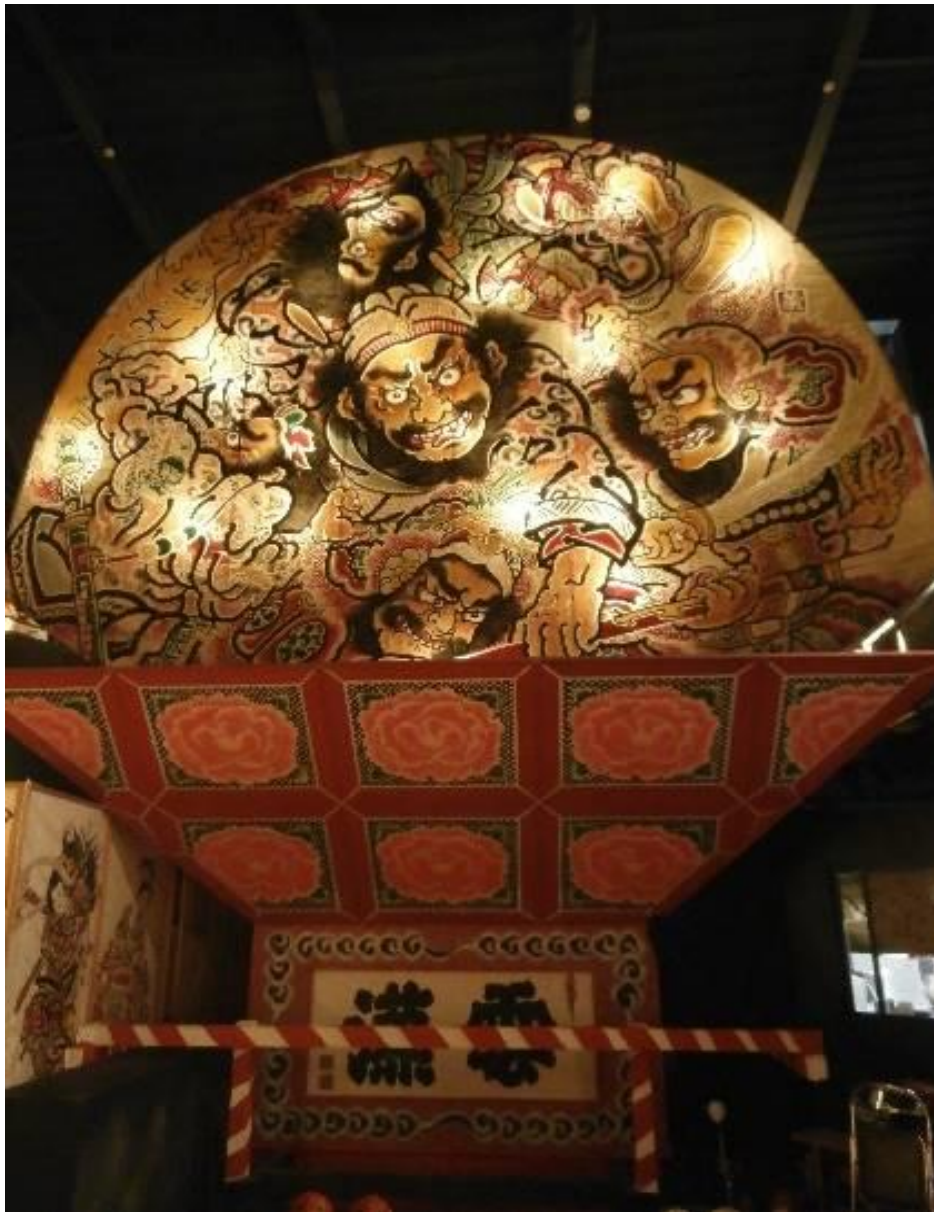
* 顧問は3人体制



ねぶたの種類 (左：県内分布, 右：立佞武多)



ねぶたの種類 (左：扇ねぶた, 右：人形ねぶた)



「ねぶた部」の変遷

青森県立青森工業高等学校『青工百年史』創立百周年記念事業協賛会（2013年）から整理

表 青森県立青森工業高等学校「ねぶた部」の変遷

年	主な出来事	備考
1986(昭和61)	東青地区高等学校長会「高校生ねぶた祭り解禁」発表 → 高校生のねぶた祭り参加承認	1985(昭和60)年まで高校生のねぶた祭り参加禁止 青森青年会議所が「高校生のねぶた」を設定し、大型ねぶたを高校生のために開放
1991(平成3)	全校生徒による「ねぶた集会」が転機	
1993(平成5)	教師・生徒有志による「青工高ねぶた愛好会」発足 → ねぶた師の下絵をもとに制作(1993～1994年)	初めて高校生の手作りねぶたが運行 → 高校生の担ぎねぶた2台(青森工業高校, 青森中央高校:1997年まで)
1994(平成6)	教職員「ねぶた委員会」、生徒「ねぶた愛好会」	
1995(平成7)	「ねぶた同好会」(~2007(平成19)まで)	
	* NHKの大河ドラマを題材にして制作(1995～1997年)	
	* 青森市内の地元の題材を取り上げて制作(1998年～, 1998年は青森市政百周年)	
2002(平成14)	学校創立90周年 → 90周年記念運行で3台の担ぎ太鼓を購入し、囃子がねぶた運行に加わった。	青森青年会議所の前ねぶたとしての制作・運行が最後
2003(平成15)	独立運行開始	市民参加のねぶた制作・運行への転換 担ぎねぶた枠の新設(大型ねぶた, 子どもねぶたでもない)
2004(平成16)	地域の方々との交流開始	
2008(平成20)	工業クラブに「ねぶた同好会」が属し、「ねぶた研究部門」へ改称 → 部に昇格したことを示しており、通称「ねぶた部」として定着	
2009(平成21)	東京都立六郷工科高等学校教員の訪問及び制作研修会	
2011(平成23)	創立百周年プレ運行	
2012(平成24)	創立百周年記念ねぶた運行	
	ねぶた制作・運行二十周年	
	→学校行事として位置づけ	
	→「ハネト」導入	



<部活動>

運動部（13部）

文化部（9部）

工業クラブ（6つ）

建築系，機械系（ロボット班・自動車班），電気系，電子系，情報技術系

ねぶた研究

→ホームページ上では「青工担ぎねぶた」で独立表示

（ねぶた部の活動費）

ねぶた運行費（約90万円）：消耗品，飲食，クリーニング，うちわ etc

材料費（約20万円）

その他（約10万円）

*財源

生徒会費，工業クラブ費，後援会費



活動の様子 1



活動の様子 2



教育課程との関連が明確であること

(1) 特別活動の学校行事（文化的行事）として、全校生徒がねぶた祭りに参加する

<役割分担>

ねぶた部の生徒が中心となり、本番までの制作はもちろん、祭り当日は囃子を担っている。他の生徒は、ハネトや担ぎ役を担う。

*お祭り期間（2日間）

1・2年生 担ぎ役

3年生 ハネト

→ ねぶた部の存在は校内でも認知されている。

*保護者の関わり・理解もあり（当日の着付けなど）

(2) 教科で学んだ技術を活用する

ねぶたの電飾など



地域社会との関連が明確であること

(1) ねぶたの質的向上

ねぶたの題材について理解を深めるためのフィールドワーク

<テーマの変遷>

大河ドラマ（1995～1997年） → 青森市内地元の題材（1998年～今日）

(2) 学習成果の地域社会への還元・貢献

地域からのねぶた制作の依頼

地域イベントへの参加



- ・コミュニケーションの重要性の認識（同年齢・異年齢）
- ・地域文化の継承・担い手としての役割



表 主な年間活動(2019年度)

月	学内	学外	備考
4	担ぎねぶた制作活動 囃子練習(学内及びワラッセにて) ～7月まで継続的に活動	ねぶた制作のためのフィールドワーク(4月～6月)	外部団体から依頼された作品制作など
5		5日 AOMORI春フェスティバル 25日 ニコニコ通りねぶた祭り	
6		16日 青函ツインシティ30周年 灯ろう制作ワークショップ 函館編 23日 同 青森編	
7		7日 つきみのまつり 12日 幸養苑夏まつり 13日 浅虫温泉ねぶた祭り 20日 野内小学校夏祭り 21日 ねぶた灯ろう絵付け教室 21日 西口大通り商店街まつり	
8	2・3日 青森ねぶた祭	15日 高校生による演劇公演 「青森市ものがたり」 17日～18日 浪岡北畠祭り	
9	オフ	オフ	
10	オフ	オフ	
11	オフ	オフ	
12	オフ	オフ	
1	ねぶた制作(部品づくり)		
2	ねぶた制作(部品づくり)		
3	ねぶた制作(部品づくり)		



他校とのつながりがあること

(1) 後継者の育成

OBが教員になり，赴任先で取り組みを展開
→ 周辺の学校への派生

(2) 交流による活性化

ネットワークの拡大による活動の定着・発展



ねぶた祭（東京都立六郷工科高等学校）



過度な競争原理が働いていないこと

(1) 高いパフォーマンスが必須ではない

学校教育の一環 → 学習への動機づけ

○部内

×部外

(2) 評価の多様性

日頃の学習成果の検証

地域社会とのつながりの実感

自己成長性の実感

×数値化, 順位付け





競争 → 共創・協創(・協奏?)



(1) キャリア教育の観点からの考察

(2) 生涯学習の観点からの考察



ご清聴ありがとうございました。



訪問調査報告

「持続可能な部活動のあり方に関する
総合的な研究」訪問調査報告

令和2年11月15日

岐阜大学 柴崎直人

訪問校

9	5	愛知県	私立滝高等学校	ビジネス部	起業家教育、キャリア教育の側面がある。また、働き方改革の点でもOBと協力して学校機能の外部化に挑戦。	柴崎
---	---	-----	---------	-------	--	----

○私立滝高等学校（愛知県） ビジネス部の取り組み

訪問日：2020/8/28

滝高等学校 ビジネス部

■ 学校法人滝学園 滝高等学校 ビジネス部
(〒483-8418 愛知県江南市東野町米野1)

設立:1926年(昭和元年)

規模:全日制課程 男女共学 普通科(高校入試
偏差値72)

高校1年9学級334名

高校2年9学級356名

高校3年9学級341名

計1031名(うち男子541名 女子490名)。

部活動の状況

運動部は11部、文化部は19部。

< 運動部 >

- ・硬式野球部
- ・サッカー部
- ・バスケットボ一部
- ・バレーボール部
- ・ハンドボール部
- ・ソフトテニス部
- ・陸上部
- ・水泳部
- ・柔道部
- ・剣道部
- ・卓球部

< 文化部 >

- ・美術部
- ・合唱部
- ・将棋部
- ・自然科学部
- ・囲碁部
- ・ブラスバンド部
- ・先進技術研究部
- ・演劇部
- ・天体観測部
- ・ギター部
- ・料理研究部
- ・茶道部
- ・写真部
- ・文芸部
- ・数理研究部
- ・英会話部
- ・競技かるた部
- ・**ビジネス部**
- ・クイズ同好会

※ハンドボール部は尾張地区の大会で優勝、県大会で4位入賞。女子テニス部がインターハイで県ベスト8、サッカー部はインターハイ尾張地区予選優勝などの実績をあげている。

活動日及び活動時間について

■学期中

平日**金曜日放課後のみ**
1時間から1時間30分程度
下校時刻17時30分厳守

■週休日等

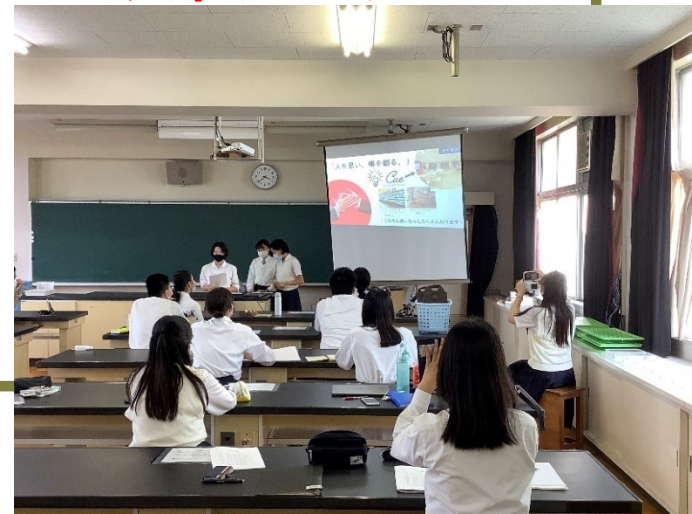
平日**金曜日以外**
土日などを含めて活動は**最長3時間まで**
朝練禁止



※この活動形態(全部活動で実施)は今年度で3年目

- ・生徒の兼部禁止
 - ・学校の勤務時間内の部活動を「A活動」として、勤務時間外の部活動をB活動としている。
 - ・A活動は必ず金曜日にどの部も行う。
顧問も必ず1名は付くということで実施している。
 - ・B活動は希望制の時間外の活動。時間外の活動を希望する顧問の教員が自主的に行う。
 - ・教員は土日の業務を自身で選択する
 - ・教員が希望しなければ時間外・土日の部活動は実施できない。
- ☆B活動の給与体系は学校と切り離して、
(株)滝教育研究所という機関に委託して実施

- PTA会費が低額(生徒一人当たり年間250円)
- 滝教育研究所から顧問の手当や登録費、活動に関わる費用を支出する形をとっている。
- 上記の形に改革をしたところ中学校の野球部では2年目(去年)の方が成績が上がり県大会で2位に。



滝高等学校 ビジネス部の状況

- (1)部員数 : 18名(3年生は5月に引退。2年生5名、1年生13名)
- (2)部活動顧問: 1名
- (3)外部講師 : 必要に応じて外部から招聘(顧問の人脈より)
- (4)活動状況 : 週1日(金曜日放課後のみ)1時間程度
- (5)その他 :
 - ・現顧問が2014年7月に非正規部活動「経済・ビジネス同好会」として創設。
 - ・2016年7月に正式な部活動として承認される。
創部4年目(発足以来6年目)。
 - ・実際にビジネスを行なう地域の企業と高校生が協働する「商品開発」の活動と、
高校生がビジネスプランを創造する「ビジネスプラン」の二つの活動を、3人から4人1組程度での少人数によるグループを形成して取り組んでいる。

ビジネス部顧問への調査概要

調査協力者...S 教諭

- (1) 部活動全般に関わること
- (2) 顧問に関すること
- (3) 指導に関すること
- (4) 効果に関すること
- (5) 活動実績等(一例)
- (6) その他



生徒への調査の概要

調査協力者...Yさん（高校2年生、女子、部長）
Mさん（高校2年生、男子、部員）

- (1) 部活動で工夫していること
- (2) 生徒が主体的に参加できるように工夫していること。
- (3) 部活動に参加してよかったと思うこと。
- (4) 部活動に参加して身についた力
- (5) 顧問・技術的指導者、地域、保護者に期待する支援
- (6) 活動の課題

調査の分析

(1) 持続可能な要素

① 教師の関わり方

調査校のビジネス部顧問は、

1) 生徒たちにチャンスをつなぐ役割

2) 人と生徒たちをつなぐ役割

3) 生徒たちに振り返りをさせるメンター的な役割

に徹しており、生徒が自分たちで部活を運営して
いかなきゃいけないと考え、自ら動かなくてはなら
ないような環境を構築している。

・また、ICTを活用して自身がいなくなった後も
理念や活動の骨子が残るような手段を講じている。

②技術指導

顧問の人脈から外部講師を招聘してビジネスのレクチャーを依頼している。

- ・滝高校のOB大学生や、有識者に対してアドバイスを求めてブラッシュアップする機会も設けてきた。

③保護者との関係、活動費用

活動費用は生徒一人当たり年間250円のPTA会費のほか、土日などの活動については、部活ごとに学校外の株式会社である「滝教育研究所」という機関に保護者が委託し、指導者・引率教員に分配する形を採用している。

④活動時間の工夫

部活動は全校統一で週1日(金曜日放課後のみ)17時30分まで(1時間~1時間30分程度)だが、生徒たちは、活動日前後のSNS等でのさまざまなやり取りを自主的にすすめており、重要な活動の要素となっている。



(2) 生徒の主体的な活動

① 活動計画

部長が中心となって、生徒自身が実際にビジネスを行なう地域の企業と協働して取り組む「商品開発」と、生徒自身がビジネスプランを創造する「ビジネスプラン」の二分野において、それぞれ4~5名程度の小集団で活動を展開している。

② コンテスト等への参加

顧問の人脈からの情報を得て、コンテストやイベント、発表会などに参加している。

商品開発 実績(例)

・江南地元応援プロジェクト:「江南の農業を盛り上げる」ことを目的としたプロジェクト。:江南市農業祭りにて開発商品を販売。JAの協力、江南周辺の若手農家と連携。

・名古屋市南区のカフェ TALOS のメニュー開発(2017年5月にオープン)の名古屋市南区のカフェの新メニューを開発。

ビジネスプラン 実績(例)

・FEDEX 主催:「英語でチャレンジビジネスアイデアコンテスト」2016年全国大会出場

・ヤマト運輸主催:「第11回ヤマト運輸高校生経営セミナー」(2016年)全国大会出場

(3) 生徒が身につける資質・能力、生徒の自己実現

①積極性

自分からどんどん活動にかかわっていこうとする
積極性を身につけられる。

②責任感

自分の仕事にとっても責任を持つようになり、
責任感を身につけられる。

③将来を自身で見つける力

自分から、自分の好きなことをやる、見つける力、
将来につながる力を身につけられる。

滝高等学校 ビジネス部 総括1

○顧問はその人脈を活かし、外部講師を招聘してビジネスのレクチャーを依頼するなど、生徒の幅広い学びの手掛かりを豊富に提供すると同時に、必要以上に生徒の活動に手を出そうとしないことで、生徒における積極性や責任感、将来を見据えて自身から外部に働きかける力の醸成に努めている。

あわせて誰が顧問になっても大丈夫なようなシステム作りもすすめている。

滝高等学校 ビジネス部 総括2

- また滝高校のOB大学生や、有識者に対してアドバイスを求めて生徒のアイデアや活動スキルをブラッシュアップする機会も設けてきた。OBの中には、部活で学んだことや部活で培った人間関係を生かしながら、高3時に起業を志した者もあり、起業家教育、キャリア教育の成果の片鱗を伺うことができる。
- 以上のように、滝高等学校ビジネス部は、その活動に起業家教育、キャリア教育の側面を持ち、OBや社会で活動する有識者との協力関係により学校機能の外部化に一部成功しており、部活動における持続可能な要素を多分に含む注目すべき運営形態であると考えられる。

「持続可能な部活動のあり方に関する
総合的な研究」訪問調査報告

ご清聴ありがとうございました

岐阜大学 柴崎直人

私立大阪高等学校 eスポーツ部

全日制普通科

〒533-0007 大阪府大阪市東淀川区相川2-18-51

中京大学ほか 玉木博章

2008年に男子校から共学になった。

- ▶ 偏差値レベルは標準からやや下ではあるが、特色のあるコースや教育内容、また講座等を売りにしており、英検や漢検など、一芸に秀でた生徒がいる。また学校の歴史も古い。
 - ▶ 学校自体が部活動を積極的に推進しており、15運動部、14文化部、2同好会、1サークルが認められている。保護者にもそうした方針を説明し、理解を得ている。生徒も部活動をしに学校に来ている子が多い。ほとんどの教員が顧問を持っている。
-



eスポーツ部（同好会）について

- ▶ 週1日以上の休養日（日曜は絶対休み）を設定している。
- ▶ 夏休み中から活動が始まったため、未定だが。通常活動に準ずる（日曜はなし）。
- ▶ ずっとプレイすることはなく、ミーティングやリフレクシオンに重きを置き、平日は6時前後、休みは土曜日のみ活動。土曜の活動は長く、昼前後から夕方6時（5時間ほど）まで。



活動教室の状況は??



e スポーツ同好会の状況

- ▶ 部員数 … 9名（調査当時1年9名）、男子9名
- ▶ 部活動顧問… 1名（情報科男性教諭）
- ▶ 外部講師 …なし（現在、企業を通じて探し中）



eスポーツという種目・競技とは？

N高校など授業でeスポーツを取り入れる学校もある

企業スポンサーの大会＝高文連高体連とは無関係

Ex. コカコーラ **STAGE** : 0 (ゼロ)

優勝校には賞金や賞品→運営費にもなる

PS、スマホ、パソコンのハード別で競技

フォートナイト (フォトナ)

リーグオブレジェンド (LOL)

クラッシュロワイヤル (クラロワ)

→プロゲーマー界では他のタイトルもある



STAGE : 0



STAGE : 0 (昨年の様子)



STAGE：0（今年の様子）



今年度のSTAGE：0について

- ▶ オンライン開催
- ▶ 昨年は対面式ステージ、決勝は大ホールで観客有り
→大会の様子は昨年につきTV放映、ネット上にもアップ
- ▶ 1779校2158チーム(昨年は1475校)
- ▶ 今年は女子選手も増加傾向



顧問の先生と指導について

- ▶ eスポーツ部を発足→部長を中心にして活動は生徒一任
- ▶ ゲームは好きなものの、eスポーツはそれほどでもない
- ▶ プレイの上達よりも、競技を通じた発達を願っている

- ▶ 企業からの設備貸借(3年期限)によって活動が成立
- ▶ 技量向上のために周囲の強豪校との連携を模索
- ▶ 企業を通じて指導人材を探している



活動の効果（プレイとそれによる影響）

- ▶ 技術の向上
- ▶ ダラダラやらなくなった→競技だということ
- ▶ プレイへの没入（声を荒げない）
- ▶ リフレクションの重視（分析的視点）

- ▶ 楽しくやりたい生徒としっかりやりたい生徒の温度差
- ▶ 今後のビジョンへの不安感（種目や形態）
- ▶ 部をどのように存続させていくかという希望と不安



活動の効果（活動による技術向上以外）

- ▶ 他者への眼差しの変化、人間関係の再編
 - ▶ 部員の新しい一面の発見から生じる新しい自己の発見
 - ▶ ミーティングを通じたコミュニケーション能力の発達
 - ▶ 自分の役割の認識、チームプレイ
 - ▶ 他者への寛容さ、折り合い、関係性維持のバランス
 - ▶ eスポーツでの学校への貢献・社会参画（イベント企画）
 - ▶ 自己実現への欲求の高まりと実現・葛藤・人格形成
 - ▶ 遊びではなく部活動をしているという自覚・切り替え
 - ▶ 親との関係形成の再編
 - ▶ 学校の広報活動への積極参加
- 自治的活動による生徒指導やキャリア発達の側面
-



持続可能性の要素

- ▶ 競技の持続可能性…生徒が生涯取り組める自主性
→練習メニュー、大会参加、設備購入も生徒が決める
 - ▶ 自主性が葛藤や衝突を生み、生徒の生涯発達も持続
 - ▶ 顧問負担の少なさ…顧問が移動・病休も大丈夫
 - ▶ 勝つと賞金が出るので強豪であれば運営費の心配無し
 - ▶ コロナも遠隔も関係ない→今年は特に着目！！
 - ▶ オンラインによる人間関係や自己社会の拡大
 - ▶ Youtube等のゲーム実況による配信や他方面への展開
 - ▶ キャリアの多様性を持続→学校文化の改変
 - ▶ 企業協力や関与による活動の発展、社会参画への期待
-



総括

- ▶ 学校主体ではなく生徒の自主性、迷い、企業連携がある
→顧問負担は少なく、生徒の意見が尊重される
- ▶ 顧問の手離しの姿勢や生徒の合意形成及び和の重視
→結社的自治と加熱しづらい「ゆる部活」の性質
- ▶ 競技人口は増えつつあり、こうした新時代の（生徒が動く）部活動が旧時代の（生徒が動かされる）部活動のあり方そして学校のあり方を問い直す上で大きな役割を果たすのではないか？



2020年度 第2回公開研究会（オンライン開催）

「持続可能な部活動のあり方を考える

～ 2023年度からの休日の地域展開を視野に入れて～

第1回 公開研究会（部活動のあり方を考えるミニ研究集会）

「部活動改革2.1 ～部活動の地域移行を考える～」

報告



掛川未来創造部パレット

Palette

Since2018

地域部活・掛川未来創造部Palette 齊藤 勇

文化部活動の 地域展開は 可能か？

～ 現実的に考えられる未来の姿 ～

学校の本校舎内の教室の開放が管理上難しいことから
そのまま地域展開することは
極めて困難

【課題】

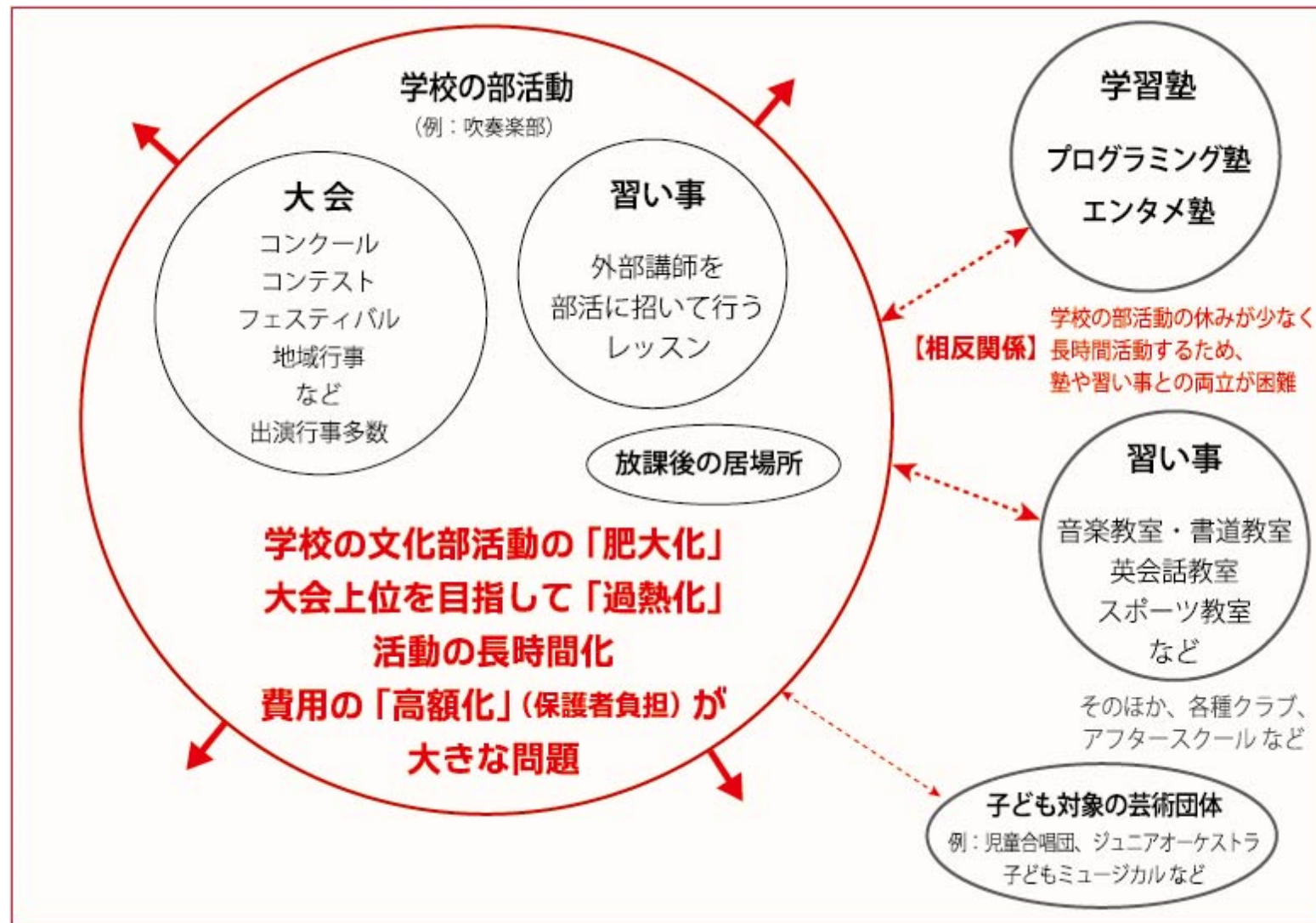
会場費・人材スタッフ・移動手段の確保、騒音問題（楽器や送迎車の音など）



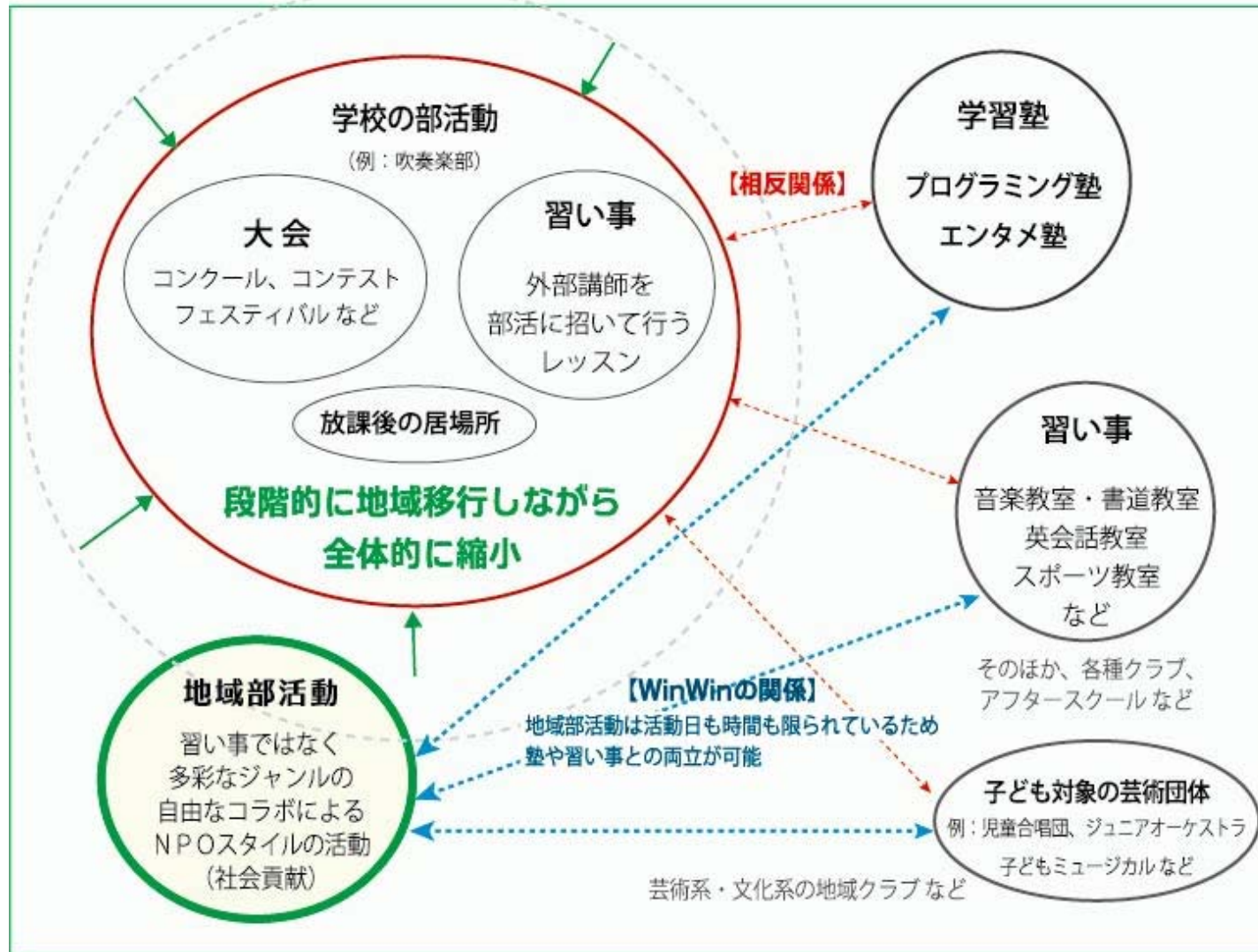
費用・人材・保護者の負担 → 平日に週2回程度の活動が限界

毎日、練習時間を大量に費やしながら
基礎から積み上げ式で成果をあげていく活動は不向き

これまでの部活動と地域の関連業界との関係性



これからの部活動と地域の関連業界との関係性



2018～2020年度 文化系・地域部活動の実践



現在、市内の7校より 中学3年 15名、中学2年 4名、中学1年 23名、計42名が所属
活動日：週2～3回 活動経費：主に静岡県文化プログラム助成金

学校部活動と大きく異なる点

- 入部する部員の個性とニーズによって、毎年活動内容が変わること
⇒ 部員の自主性と主体性、創作の自由度を最大限に尊重 (プロジェクトチーム体制を採用)
- 大会に一切関与しない ※大会=審査方式で表現や技能を競うコンクールやコンテスト等を指す
- 対外的なイベントでの発表のテーマ「地域が大切にしている文化・歴史・産業」
- 習い事的な要素は含めない ※専門家による表現技術を高めるレッスンは行わない
- プロデューサーが存在する部活動 ⇒当面は大人が担当。直接、指揮や演出などは行わない。
⇒ 結果、部員個々がモチベーションを高く維持して活動を継続

部活動の肥大化・過熱化・活動時間の長時間化・費用の高額化への対策

- 週2日を基本（週末は対外イベント本番や移動教室に限定、土日連続の活動は禁止、テレ部活を実施）
- 大会への不参加
- 外部講師のアドバイスをオンライン化（地域部活の本部が提供）
 - ⇒ 対外的な発表機会に向け、講師が指揮や演出など作品づくりに一切関与しない仕組み
 - ⇒ 直接利害が生じる業者や個人事業主（講師など）との間で明確な一線を引く事が重要
- 顧問（大人）は相談役、スタッフは見守り役
- 保護者会（組織）は編成しない（保護者は送迎の支援のみに限定）

2021年度～

文化系・地域部活動

地域展開に向けて

地域展開の具体的なプラン

- 地域展開を推進する全国組織を発足

⇒ NPO法人 日本地域部活動文化部推進本部 2021年1月認証 ⇒ 2月設立

- 費用と手間がかかる内容をNPO本部が担い、
各拠点は最小限の人員と費用で活動を可能にする仕組みを提供

(提供内容) オンライン講座(外部講師)の配信、地域部活を円滑化するための映像コンテンツの提供、

情報管理DBの提供、ICT活用を活用したプロジェクトマネジメントの仕組みとコンテンツ提供

広報ツール: チラシのフォーマットや本部WEBサイト(地域部活の特徴など)へのリンク提供など

- 2021年4月 高校生の地域部活を新たに創部 ※中学生とのコラボ、支援も実践

※中学生(Palette)と新設の高校生の地域部活 = NPO本部直轄の部活動(実践研究の場)

2020年度

文化系・地域部活動 元年

～地域と共にある持続可能な部活動への第一歩～

実践と検証から得られる知見をもとに

現実的な視点から全国各地の地域展開を支援

2020年度 部活動研修集会 第2回公開研究会

部活動はなんのため？ どこに向かうのか？



2020年11月15日

妹尾 昌俊

教育研究家

合同会社ライフ&ワーク 代表

NPO法人まちと学校のみらい 理事

senoom879@gmail.com

<https://news.yahoo.co.jp/byline/senoomasatoshi/>

【妹尾の著書の紹介】 本を読むのも、書くのも好きです！



ぼくの原点。
元気な学校は何が
ちがうのか。



ビジョンは思った以上に浸透していない。
学校の戦略づくりとコミュニケーションを考える。



多忙の実態を豊富なデータで解説。
働き方改革の基本方針と具体策を提案。



ケースメソッド方式でモチベーションや業務改善について、とても具体的に考えられる一冊。

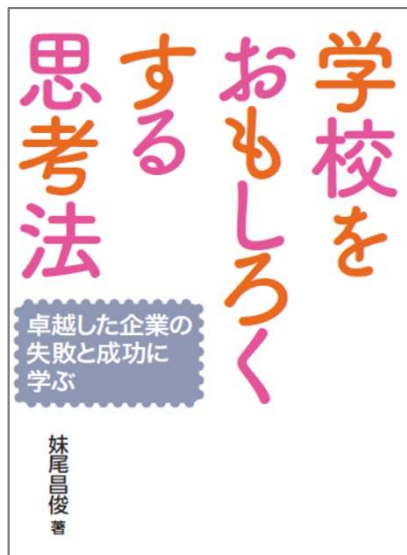


わくわくする学校事務に挑戦する6人のプロたちの仕事への姿勢や仕事術を分析。事務職員の学校運営への参画を具体的に考えていける本。



働き方改革の教科書。学校や教育委員会が行うべきこと、中教審答申とその前後の最新動向を踏まえて解説。

典型的なマズイ事例に陥らないために、どうするか、5大原則を演習問題付きで解説。



企業や行政、イノベーターたちの失敗と成功から、学校や教育行政は何を学べるか。Google、セブンイレブン、スタバ、佐賀県庁など様々な事例を分析。



教師不足、過重労働、社会からの信頼低下など、5つの危機、ティーチーズ・クライシスを解説。

採用倍率低下は本当に問題なのかなど、データをもとに深層に迫る。

わたしが研修・講演でよく問いかけていること

部活動はなんのため？

- ① そもそも、部活動は**何のため**のものでしょうか？
主たるねらいは何ですか？
 - 大会等で勝つため？入賞するため？
 - 生徒指導のため？

- ② 部活動に入っていない生徒については、どうしますか？

- ③ 部活動に大きな意義、効果があるとしても、いまの時間、負担でいいでしょうか？
 - ★教員の負担や24時間をどう使うかという視点から、どうですか？
 - ★生徒の負担や24時間をどう使うかという視点から、どうですか？

友添秀則(2016)『運動部活動の理論と実践』より

(戦後に対外大会の厳格な規制がとられたが、東京五輪前後に規制が緩められてきた過程は)

「競技」と「教育」という対立する論理の葛藤の歴史でもある。そして、**競技の論理が教育の論理を押し切ってきた過程**でもある。

問い 部活動指導のなかで、これは「競技の論理」が強かったかもな、と思うことはありますか？

競技の論理

- ✓ 大会、コンクール等で**勝つ**(入賞する)こと。
- ✓ 「**長く練習しなければ**強くなれない」と信じている人が多い。
- ✓ ただし、プロや専門家のなかには短時間で集中した練習を勧める見解も多い。
- ✓ 監督や指導者の言いなりに、**従わせようとする**“指導”も見られる(全部がそうではないが)。
- ✓ 技術的な指導ができること。
顧問ができない場合は、外部指導者等を雇う。

主要な目的と目標

活動時間

生徒の自主性、主体性

指導者の役割

教育の論理

- ✓ 生徒の**人間性や社会性が育つ**こと(挑戦すること、やり抜く力、チームワークなど)。
- ✓ スポーツや文化、科学に**親しむ**こと。
あわよくば、好きになって生涯にわたり楽しんでもらうこと。
- ✓ 長時間練習する必要性は高くない。
- ✓ 児童・生徒の身体の発達状況等に応じて適度な練習量におさえる必要がある(けが、故障、バーンアウトの防止)。
- ✓ 練習メニューの企画、試合の戦術などで児童・生徒の**自主性を伸ばす**ことを重視する。
- ✓ 技術的指導はできたほうがベターだが、必須ではない。
- ✓ 見守り(安全管理)、多少の励まし、課題設定の支援などができればよい。

何をねらって、なんのために、部活動を地域移行するのか？

期待される効果（部活動指導員の配置、民間委託を含む）

1) 子どもにとっての 影響

- 学校ではできなかった活動ができる。活動の選択肢が広がる。
- その競技や文化活動の専門性の高い指導を受けられる（指導者によるが）。
- 入退部の自由度が増す（強要されにくい）。
- さまざまな価値観をもつ人との交流（ナナメの関係の構築）のなか、成長できる。

2) 教職員、学校に とっての影響

- 部活動指導の負担が減る。授業準備など本来業務により時間とエネルギーを割けるようになる。
- 地域との関係性が強まる。部活動以外でも連携しやすくなる。

3) 地域にとっての 影響

- 地域のスポーツや文化活動が活性化する。指導者も愛好者も増える。
- 地域のなかでの連帯、関係性、ソーシャル・キャピタルが向上し、部活動以外でも役立つ（たとえば、防災・防犯）。
- 地域人材にとって生きがいや健康につながる。
- 民間企業等にとってはビジネスの活性化につながる。

部活動の地域移行(部活動指導員の配置、民間委託を含む)で想定される問題、課題

1)子どもにとっての 影響

- 学校管理下よりも、子どもにとって**過大な負担**となるケースもある。過熱化するなかで、怪我やバーンアウトを誘発するリスクも。
- **暴力、体罰、暴言**など不適切な行動の被害を受けるリスクがある。
- 家庭の負担が高まり(費用や送り迎えなど)、**一部の児童生徒は参加できなくなる**可能性がある。

2)教職員、学校に とっての影響

- 児童生徒と部活動を通じて**関係性をつくりにくくなる**。
- 教師としての**やりがい**が下がる人もいる。
- 地域との連携・協力がうまくいかず、**もめたりすると、かえって負担は増える**。
- 勤務を離れて、教職員が地域活動として指導にあたることも可能だが、**過労死等のリスクが高まっても、管理・モニタリング**できない。

3)地域にとっての 影響

- 受け皿となる**地域団体等における負担**は増す(安全管理、会計等)。
- 地域ごとの**差が広がる**。受け皿がたくさんある地域とほとんどない地域と。スポーツ、文化活動等が活性化する地域もあれば、停滞する地域も。とりわけ人口減少地域は、子どもの数減少と相まって、魅力減少か？

地域移行・地域展開に向けて なにを解決する必要があるか？

- いまの部活動をほぼそのまま、地域移行する発想では、おそらくうまくいかない。
 - 部活動の種類・数の精選
 - 国のガイドラインなど以上にもっと休養日を増やす
- 指導者等への十分な処遇と、経済的に困窮する家庭等への支援が必要。
- 学習指導要領上の位置づけをどうするか。

部活の地域移行は進むのか？ 実現するために必要なこと



妹尾昌俊 | 教育研究家、学校・行政向けアドバイザー

9/9(水) 11:26



ツイート



シェア



B! ブックマーク



(写真:アフロ)

先日、文部科学省は、休日の部活動を従来の学校主体から地域主体にしていくことを柱とした、部活動改革案を示しました(9月1日)。地域主体というのは、スポーツ団体や文化団体、あるいは保護者会、民間企業等が休日の部活動指導を担うことを指します。文

気軽にコンタクトください
ご意見、ご感想、研修会、読書会なども歓迎です～

妹尾 昌俊

senoom879@gmail.com

★Facebook Twitter 実名

★Yahoo! 個人

<https://news.yahoo.co.jp/byline/senoomasatoshi/>

★ブログ: 妹尾昌俊アイデアノート

<http://senoom.hateblo.jp>

★書評サイト Books for Teachers

<http://bookfort.hatenablog.com/>

YAHOO! JAPAN ニュース senoom879 0ポイント
コロナ対策支援制度まとめ

キーワード検索

あなたのコメント 購入履歴

トップ 速報 映像 個人 特集 みんなの意見 ランキング 有料

新着記事一覧 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT・科学 ライフ オーサー一覧

日本中の先生たち
Be Happy!

妹尾昌俊
Masatoshi Senoo

妹尾昌俊
教育研究家、学校・行政向けアドバイザー

senoom8masatoshi
senoo.masatoshi

official site
妹尾昌俊アイデアノート～ステキな学校、地域、そして人たち

徳島県出身。野村総合研究所を経て2016年から独立し、全国各地で学校、教育委員会向けの研修・講演などを手がけている。学校業務改善アドバイザー（文科省、埼玉県、横浜市等より委嘱）、中央教育審議会「学校における働き方改革特別部会」委員、スポーツ庁、文化庁の部活動ガイドライン作成検討会議委員、岐阜市公教育検討会議委員等を歴任。合同会社ライフ&ワーク代表、NPO法人まちと学校のみらい理事。主な著書に『変わる学校、変わらない学校』、『教師の魂』、『こうすれば、学校は変わる! 「忙しいのは当たり前」への挑戦』、『学校をおもしろくする思考法』、『「先生が忙しすぎる」をあきらめない』など。4人の子育て中。

記事 107 オーサーコメント 73

記事一覧 1~25/107件 年月で絞り込む

9月入学は先送りでも、教育問題の先送りはできない
9月入学の拙速な導入は見送られる公算が高くなってきたが、教育現場、学校には先送りが許されない問題が山積みだ。学習の遅れへの対応、子どもの心のケア、教員の過労、大学入試の方針策定などだ。
5/30(土) 11:50

休校中の「大量の宿題が大変です」をどう考えるか【#コロナとどう暮らす】
「休校中の宿題が多くて困っている、教えることにも限界がある」という保護者からの声がたくさん寄せられています。どう捉えたらよいでしょうか。子どもたちの学習意欲上マイナスになるようではいけません。

現時点の到達点と 今後の課題

持続可能な部活動のあり方に関する総合的な研究

現時点での到達点

- ・研究内容(1) 2019年度は探索的な調査8校の分析から持続可能性の要素を仮に抽出

2020年度の9校のうち4校の調査を完了

計17校の調査結果をふまえた分析を今年度末に行う

- ・研究内容(2) 約7000件の先行研究を分析中

今年度末には一定の成果を出す

- ・研究内容(3) 未着手(3年目(2021年度)に実施)

持続可能な形のパターン(仮)

- ・ゆる部活動型(シーズンスポーツ)
- ・ICT活用型
- ・時短活動型
- ・働き方改革との連動型
- ・地域連携型
- ・地域での拠点校方式型(合同部活を含む)
- ・地域展開(移行)型

部活動の持続可能性とは

- ・生徒にとっての活動の持続可能性（生涯にわたって取り組むことができるか）
- ・教員にとっての持続可能性（無理なく関わることができるか）
- ・部そのものの存立の持続可能性（改革・適正化しての継続はできるか）
- ・学校にこだわらない活動の持続可能性（地域連携、地域展開で打開できるか）
- ・部活動研究の持続可能性（未開の研究内容に取り組むことができるか）

今後の研究課題(3年目に向けて)

(1) 訪問調査の成果を分析・考察し、持続可能性の要素を明らかにする

(2) 部活動研究の分析から未開の研究分野を可視化する

(3) これらをふまえ、今後の部活動の実践及び研究のあり方を考察する

(実践→学校で持続か地域展開か、両立か)

補足

- ・研究の前提として、部活動で生徒が学ぶものは何か、部活動で育む資質・能力は何か、学校でなければできないことは何かを確認しておく必要がある
- ・研究の枠組みには限界があるため、3年間の研究では部活動改革（部活動の適正化）の全てに役立つ知見は提供できない
 - その先も考えていく必要がある